

第一精工舍



石田社長

第一精工舎（本社・大阪府大東市、社長・石田恭彦氏）は、2001年の創業のプラスチック製品メーカー。大手樹脂原料メーカーの研究者だった石田社長が同社を興した。

きらりと光る

社の存在意義であり、大きな特長となつてゐる」（石田社長）。

樹脂パウダーに混ぜ込む素材は金属属（ステンレス粉・鉄粉・銅粉・アルミ粉など）だけ

「周知の通り、銅に殺菌

銅の配合比率で、業界において類似品がない。今後、金型で射出成型し吊り革や手すりカバーなどを量産化する方針。

配合から成形までを第一精

タードで一貫生産できる利点を広くPRし、製品を通じた社会貢献を図つていきた

い」（同）と語る。

ターの「C STARマーク認定製品。「FBI工

## 銅の抗菌作用でコロナ対策

これがいわば業界の常識となるべく、主導のペレット経由では「一品」様の製品化は難しく、いじ石田社長は指摘する。「一品」様の決め手は、原料（樹脂とそれに組み合 わせる素材）を従来のペレ リング.Injecti

シードせなく、パウダー化  
するに止んだ。パウダー  
化するに止んで、高品質かつ  
低コストの製品ができる。  
創業以来、この独自技術  
『フリーブレンジン法』  
(Free Blend  
Injection 法) によりたわ

でなく、陶器・木材・紙など多岐にわたる。このFBI工法を活用し、表面では付着して3日間存活可能だが、銅の表面上で「Paper」(アラッパー)だ。プラスチックのテレンスやプラスチックはウイルス接触感染対策製のみ。新型コロナ対策で銅の殺菌効果を生かし、吊り革や手すりカバーなども提案

第一精工舎は製造拠点が大阪府大東市に4カ所。従業員数は110人(派遣8人を含む)。年商は29億円

(19年9月期)。

り、プラスチック製品であり、特許申請中。原料はプラスチック樹脂の粉を銅粉と混合したもので、それに添加剤を加え射出成形で加工する。特筆すべきは最大70%まで可能という銅の配合比率で、業界において類似品がない。今後、樹脂パウダーに混ぜ込む素材は金型で射出成型し吊り革や手すりカバーなどを量産化なっている」(石田社長)。

「F B I T ターの「C STARマーク」認定製品。「F B I T 法は廃材が活用でき、循環型社会への貢献ができる。配合から成形までを第一精工舎で一貫生産できる利点を広くPRし、製品を通じた社会貢献を図つていきたい」(同)と語る。

鉄粉・銅粉・ア  
する方針。

ルミ粉など)だけ  
「周知の通り、銅に殺菌  
(白木 毅俊)